



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	公営住宅(月寒団地F-4号棟)	階数	地上5F,一部R階
建設地	札幌市豊平区月寒東1条7丁目574-15の内	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	84人
気候区分	2地域	年間使用時間	8,640時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年10月 予定	評価の実施日	2017年5月15日
敷地面積	1,784 m ²	作成者	遠田 雅宏
建築面積	512 m ²	確認日	2017年6月23日
延床面積	2,400 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

環境品質 G vs 環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <ul style="list-style-type: none"> 全住戸分の駐輪スペースを確保、適切な駐車スペースを確保している。 周辺の住宅等の建物に対するの配置を考慮した。 	<p>A 省エネルギー</p> <ul style="list-style-type: none"> 各住戸には全熱交換機を設置している。 住宅性能等級4を満たしている。
<p>B 省資源等</p> <ul style="list-style-type: none"> 断熱材にリサイクル可能なグラスウールを採用した。 	<p>C 緑化</p> <ul style="list-style-type: none"> 敷地内に緑地を20%確保している。
	<p>D 雪処理</p> <ul style="list-style-type: none"> 雪対策として堆雪スペースを確保し、敷地外へ雪を出さないように配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE Sapporo2014v1.2
公営住宅(月寒団地F-4号棟)

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート	実施設計段階				重点評価項目	重点評価項目		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	A		B			評価点	重み係数		評価点	重み係数			
	A	B	C	D									
Q 建築物の環境品質													2.7
Q1 室内環境													2.5
1 音環境													2.9
1.1 騒音													3.0
1.2 遮音													3.0
1 開口部遮音性能													3.0
2 界壁遮音性能													-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													-
1.3 吸音													-
2 温熱環境													2.1
2.1 室温制御													1.0
1 室温													1.0
2 外皮性能													-
3 ゾーン別制御性													1.0
2.2 湿度制御													-
2.3 空調方式													-
3 光・視環境													2.3
3.1 昼光利用													1.6
1 昼光率													3.0
2 方位別開口													-
3 昼光利用設備													-
3.2 グレア対策													3.0
1 昼光制御													1.0
2 障り防止対策													1.0
3.3 照度													1.0
3.4 照明制御													1.0
4 空気質環境													3.0
4.1 発生源対策													3.0
1 化学汚染物質													3.0
2 空気汚染物質													-
4.2 換気													3.0
1 換気量													-
2 自然換気性能													-
3 取り入れ外気への配慮													3.0
4.3 運用管理													-
1 CO ₂ の監視													-
2 喫煙の制御													-
Q2 サービス性能													2.9
1 機能性													3.0
1.1 機能性・使いやすさ													2.6
1 広さ・収納性													4.0
2 高度情報通信設備対応													-
3 バリアフリー計画													-
1.2 心理性・快適性													4.0
1 広さ感・景観													1.0
2 リフレッシュスペース													-
3 内装計画													1.0
1.3 維持管理													2.5
1 維持管理に配慮した設計													3.0
2 維持管理用機能の確保													2.0
3 衛生管理業務													-
2 耐用性・信頼性													2.8
2.1 耐震・免震													3.0
1 耐震性													3.0
2 免震・制振性能													3.0
2.2 部品・部材の耐用年数													2.5
1 躯体材料の耐用年数													5.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔													2.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔													3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔													-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔													-
6 主要設備機器の更新必要間隔													3.0
2.4 信頼性													3.0
1 空調・換気設備													3.0
2 給排水・衛生設備													3.0
3 電気設備													3.0
4 機械・配管支持方法													3.0
5 通信・情報設備													3.0
3 対応性・更新性													3.2
3.1 空間のゆとり													-
1 階高のゆとり													-
2 空間の形状・自由さ													-
3.2 荷重のゆとり													-
3.3 設備の更新性													3.2
1 空調配管の更新性													3.0
2 給排水管の更新性													4.0
3 電気配線の更新性													3.0
4 通信配線の更新性													3.0
5 設備機器の更新性													3.0
6 バックアップスペースの確保													3.0

CASBEE Sapporo2014v1.2

公営住宅(月寒団地F-4号棟)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		A	B	C	D		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q3 室外環境(敷地内)											
1 生物環境の保全と創出						2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮						3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮						3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						3.0	0.50	-	-	3.0	
3.2 敷地内温熱環境の向上						3.0	0.50	-	-	3.0	
LR 建築物の環境負荷低減性											
LR1 エネルギー											
1 建物外皮の熱負荷抑制						住宅性能評価 断熱等級4	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用							3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化						BEI 非住宅 — 住宅(専有部) 0.88	4.3	0.50	-	-	4.3
集合住宅以外の評価(3a.3b)											
集合住宅の評価(3c)						住宅性能の等級4	4.3	1.00	-	-	4.3
4 効率的運用							3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価											
4.1 モニタリング							3.0	-	-	-	3.0
4.2 運用管理体制							3.0	-	-	-	3.0
集合住宅の評価											
4.1 モニタリング							3.0	1.00	-	-	3.0
4.2 運用管理体制							3.0	0.50	-	-	3.0
4.2 運用管理体制							3.0	0.50	-	-	3.0
LR2 資源・マテリアル											
1 水資源保護							3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水						節水コマなどに加えて、省水型機器などを用いている	4.0	0.40	-	-	4.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							3.0	0.60	-	-	3.0
1 雨水利用システム導入の有無							3.0	0.70	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無							3.0	0.30	-	-	3.0
2 非再生性資源の使用量削減							3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減							2.0	0.10	-	-	2.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用							3.0	0.20	-	-	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						-	3.0	0.20	-	-	3.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						-	3.0	0.20	-	-	3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材							2.0	0.10	-	-	2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み						躯体と仕上げ材が容易に分別可能	4.0	0.20	-	-	4.0
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避							3.0	0.70	-	-	3.0
1 消火剤							-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)							3.0	1.00	-	-	3.0
3 冷媒							-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境											
1 地球温暖化への配慮						計算による	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮							2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25	-	-	3.0
2.2 温熱環境悪化の改善							2.0	0.50	-	-	2.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制							3.0	0.25	-	-	3.0
1 雨水排水負荷低減							3.0	0.25	-	-	3.0
2 汚水処理負荷抑制							3.0	0.25	-	-	3.0
3 交通負荷抑制							3.0	0.25	-	-	3.0
4 廃棄物処理負荷抑制							3.0	0.25	-	-	3.0
3 周辺環境への配慮							2.5	0.33	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-	-	3.0
1 騒音							3.0	0.50	-	-	3.0
2 振動							-	-	-	-	-
3 悪臭							3.0	0.50	-	-	3.0
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制							1.6	0.40	-	-	1.6
1 風害の抑制							1.0	0.70	-	-	1.0
2 砂塵の抑制							1.0	-	-	-	1.0
3 日照障害の抑制							3.0	0.30	-	-	3.0
3.3 光害の抑制							3.7	0.20	-	-	3.7
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に溢れる光への対策						広告物がない	4.0	0.70	-	-	4.0
2 日光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30	-	-	3.0

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE 札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

1 建物概要		BEE	1.0	BEEランク	B ⁺
建物名称	公営住宅(月寒団地F-4号棟)	総合評価	★★★★★	★★★★★	★★★★★
建物用途	集合住宅				
延床面積	2,399.79 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー ★★★★★	<p>この建物は特に 省エネルギー性能 が優れています</p>
	省資源等 ★★★★★	
	緑化 ★★★★★	
	雪処理 ★★★★★	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア					
A 省エネルギー				合計	24点 / 24点
Q1 温熱環境	スコア 4.0	LR1	建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0
Q1 光・視環境	スコア 4.0	LR1	自然エネルギー利用	スコア	1.0
		LR1	設備システムの高効率化	スコア	9.0
		LR1	効率的運用	スコア	2.0
B 省資源等				合計	13点 / 23点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 0.0	LR2	非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0	LR2	汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0
		LR3	地球温暖化への配慮	スコア	4.0
		LR3	地域環境への配慮	スコア	2.0
C 緑化				合計	8点 / 16点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 2.0	LR3	地域環境への配慮	スコア	1.0
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 4.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0				
D 雪処理				合計	2点 / 3点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0	LR3	地域環境への配慮	スコア	1.0

4 設計上の配慮事項		
A 省エネルギー		
・各住戸には全熱交換機を設置している。 ・住宅性能等級4を満たしている。		
B 省資源等	C 緑化	D 雪処理
・断熱材にリサイクル可能なグラスウールを採用した。	・敷地内に緑地を20%確保している。	・雪対策として堆雪スペースを確保し、敷地外へ雪を出さないように配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される